

2022年10月25日

各 位

会 社 名 宝ホールディングス株式会社  
 代 表 者 名 取締役社長 木村 睦  
 (コード番号 2531 東証 プライム市場)  
 問 合 せ 先 財務・IR部長 宇佐美 昌和  
 T E L ( 0 7 5 ) 2 4 1 - 5 1 2 4

2023年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2022年8月4日に公表した2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日)の第2四半期累計期間の連結業績予想を下記の通り修正しますので、お知らせいたします。

記

1. 2023年3月期 第2四半期累計期間の連結業績予想数値の修正 (2022年4月1日～2022年9月30日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前回発表予想 (A) (2022年8月4日発表)	159,000	16,700	17,200	9,100	46円03銭
今回修正予想 (B)	164,279	19,614	19,972	10,873	55円00銭
増 減 額 (B-A)	5,279	2,914	2,772	1,773	-
増 減 率 (%)	3.3	17.4	16.1	19.5	-
ご参考:前期実績 (2022年3月期第2四半期累計)	141,213	21,616	21,884	10,050	50円84銭

## 2. 修正の理由

売上高につきましては、前回予想(2022年8月4日公表)に対して、宝酒造および宝酒造インターナショナルグループは、ほぼ予想通りとなる見通しです。タカラバイオグループは、新型コロナウイルス第7波の影響を受け、関連する検査製品が上回ることから、予想を上回る見通しです。

利益面では、前回予想に対して、宝酒造では経費の減少などにより営業利益は上回り、宝酒造インターナショナルグループは、ほぼ予想通りの営業利益となる見通しです。また、タカラバイオグループは売上高の増加により売上総利益が増加することで予想を上回る営業利益となる見通しです。

これらによりグループ全体で売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前回予想を上回る見通しです。

なお、本日、当社の連結子会社であるタカラバイオ株式会社(コード番号 4974 東証プライム市場)も、第2四半期累計期間の連結業績予想の修正発表をおこなっております。

## 3. 2023年3月期 通期の連結業績予想について

通期の連結業績予想につきましては現在精査中であり、2022年11月10日に予定している第2四半期決算発表時にお知らせする予定です。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、  
2022年11月10日発表予定の第2四半期決算発表数値とは異なる可能性があります。

以 上

---

### 当資料取り扱い上の注意点

当資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。